

1 新規就農者向けの支援制度

新規就農時の機械・施設に助成  
就農条件整備事業

- 対象者** 町内に就農する認定就農者等  
(就農時から5年以内、65歳未満)
- 内容** 次の場合に助成する。  
(1) 農協または公社が認定就農者等に対し、就農時に必要な機械・施設を貸与するために整備する場合  
(2) 認定就農者等が自ら就農時に必要な機械・施設を整備する場合
- 補助率** 1/2 (事業費上限2,000万円)



高原ではりんご栽培も

2 移住・定住者向けの主な支援制度

<b>子育て</b>	<b>小学生医療費助成</b>	小学校在学中の児童が通院・入院した場合に、医療費等を助成(補助率1/2) 自己負担額 ・通院530円/回(同一医療機関で月4回まで) ・入院1,200円/日(住民税非課税世帯のみ対象、最高18,000円/月まで負担、食料は助成対象外)
	<b>その他</b>	放課後児童クラブの設置など
<b>体験</b>	<b>移住定住希望者への町案内</b>	移住定住希望者に対し、半日程度の日程で町内を案内
<b>その他</b>	<b>相談窓口の設置</b>	移住・定住希望者からの相談・問い合わせに対応

たたら鬼と村づくり ~ 伯耆町溝口地区・日本最古の鬼伝説

Town Topics

鬼にまつわる昔話は「桃太郎」をはじめ全国各地にあるが、その中でも伯耆町溝口地区に残る鬼伝説は「最古」を誇る。はるか2000年以上も前のこと、地区内の山(鬼住山=きずみやま)には鬼の兄弟が居座っており、村人たちを大いに苦しめていた。ある時、孝霊天皇(伝・第7代、紀元前342年~紀元前215年)が地区を訪れ、この話を聞くと鬼退治を決意。鬼の館を見下ろす高台に陣を敷き、まず弟鬼を笹団子でおびき寄せて矢で射抜くことに成功したが、兄鬼は激しく抵抗し、戦闘はこう着状態に。



町内には鬼のブロンズ像も(下の記念館は休館中)

すると、天皇の夢枕に神様が立ち、笹の葉を集めて積み上げておくよう告げる。これに従って3日目の朝、強風で舞い上がった笹が鬼の体にまわりついて突然燃え上がり、鬼はなすすべもなく降参。以後、天皇の言いつけどおり、人々とともに村づくりに汗を流したという。

こうした鬼伝説は、旧来の製鉄技術である「たたら製鉄」との関係が深いといわれる。たたら製鉄では、山の土砂を川に流して砂鉄を採取する一方で、大量の木を切って炭を作るため、山を丸裸にし川を荒らしてしまう。これが低地の住民の暮らしを脅かし、争いが起こることもあった。



町内のそば畑

溝口地区の周辺が古代・伯耆国の一大製鉄地帯だったことからすると、鬼伝説は「農耕の民」と「産鉄の民」の対立と和解の物語として読めるのかもしれない。和解の一つの象徴は現在、付近に広がるそば畑。作物は「鬼っ子そば」の銘柄で販売され、小粒で香り高いと評判だ。

これ以外にも、町内には白鳳時代(約1300年前)の屋根装飾品で、城のシャチホコの始祖といわれる「鴟尾」(しび)や、平安時代の美女・小野小町の墓と伝わる五輪塔などが残っている。

伯耆町は、いにしへの想像をかき立ててやまない伝説や遺物の宝庫なのだ。

担当者メッセージ

伯耆町産業課 上谷 史歩さん



伯耆町は中国地方最高峰・大山のお膝元。中心を流れる清流・日野川の恵みを受け、白ねぎ、白菜、肉用牛など農業生産がさかんです。そんな自然の息吹にふれながら伯耆町で農業を始めてみませんか? 私たちが新たに就農を目指す方を応援しますので、お気軽にご相談ください。

新規就農者紹介

森藤 力さん



平成21年4月に就農。野菜60aの有機栽培に取り組んでいる。森藤さんは、就農前に最低1年は篤農家などの元で研修を受けることを勧める。「農業の楽しさと厳しさを体験する中で目指す農業も見えるはず。あとはやる気と資金」という。



悠久と輝きの高原に広がる夢色のガーデン。

標高600mの「大山放牧場」では牛たちがのんびり牧草をはむ。場内には酪農体験できる施設もある

まちの環境と農業

environment & agriculture

気 候

低地は温暖、山間部は多湿

低地の平均気温は年間15 前後と比較的温暖。積雪の多い山間部では降水量が3,000mmを超える年も。

地 勢

山容秀麗な「伯耆富士」の西麓

中国地方最高峰・大山の西麓に位置する。大山は方角により表情をさまざまに変えるが、特に伯耆町側から望む山容は富士山を思わせる美しさで「伯耆富士」と呼ばれる。榎水高原は代表的な観光地。



農 業

高原の気候を生かした農業

農業産出額は約21億円(平成18年)。主要作物は、米のほか、高原の気候を生かした白菜、白ねぎなど。酪農も盛ん。



主な農産物

agricultural products

心優しき大蛇伝説が彩る良質の農産物

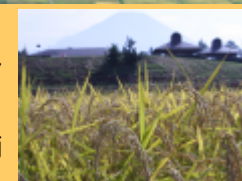
古来、「八郷」(やごう)と呼ばれる伯耆町大原地区周辺は標高300m、大山山麓の農業地帯。その豊かな栽培環境は、土地に語り継がれる伝説に彩られる。

遠い昔、土地の守り神だった大蛇は、東方からやってきては暴れ回る大ムカデに悩まされていた。それを聞いた神様がムカデを退治すると、喜んだ大蛇は土地を神様に差し出した上に、一夜のうちに大山からの水を引く用水路を掘ったものの、疲れ果てて息絶えてしまった。

その後、神様が切り開いた広大な農耕地は「大原千町」(おおはらせんちょう)、周囲に8つの村があった土地は「八郷」と呼ばれるようになったという。

そして、いま同地区は、大山水系の伏流水で育ったコシヒカリの銘柄米「八郷米」や良質の白菜の産地。町を代表する特産品には、命を賭けて神様の恩に報いようとした心優しい大蛇の魂が宿っている。

米・白菜



伯耆町で暮らすことは、悠久の名峰・大山とともに生きること。田畑や牧場で動植物が生命を輝かせる高原の四季は、まるで美しい庭園を見るよう。収穫の喜びを山と分かち合いながら、雄大な緑のキャンパスに確かな夢を描きたい。

伯耆町

【ほうき・ちょう】

BASIC DATA

人 口	11,929人(H21)
農業就業人口	1,793人(H17)
面 積	13,945ha(H21)
経営耕地面積	1,267ha(H17)
特産品	米、白菜、白ねぎほか



お問い合わせ先

伯耆町産業課  
〒689-4292 鳥取県西伯郡伯耆町溝口647 (溝口分庁舎内)  
☎ 0859-62-0723  
http://www.houki-town.jp/